

# データから見るサッカーの醍 醐味

萬田 晃

パスで攻めた大宮、守備力を発揮した鳥栖。

---

13節終了時点で首位を走る大宮と15位に低迷するサガン鳥栖の対戦。試合は、両者譲らず勝ち点1を分け合った。

大宮の攻撃数値を見ると、パスCBPが過去13試合の平均より高い。前半の鳥栖ディフェンスが安定していなかった面もあるが、前線にシンプルに放り込むのではなくテンポよく球をつないでシュートまでもっていく攻めの形が表れた。2トップの一角のズラタンの不在をものともしないくらい前半の大宮は、終始相手を圧倒した。

鳥栖は、攻撃・パス・ドリブル・クロスそれぞれのCBPが過去13試合平均よりも低い。後半こそ、動きの落ちた大宮守備陣のウラヘロングボールを放り込んでチャンスを作るシーンがあったものの、前半の鳥栖は、ボールを持ってもパスコースを見つけられずに自陣で停滞する場面が目立った。一方で、守備CBPを14節のみで見ると、J1・18クラブで最も高い。13試合終了時点でリーグワーストの31失点だが、大宮戦では昨年5位に躍進した要因となった守備力がでた。相手との1対1の競り合いにも勝つ。鳥栖の今後の課題は、攻撃面をどのように高めるかだ。

参照データ

<http://www.football-lab.jp/omiy/report/?year=2013&month=07&date=06>